

## 阿波座駅(地下鉄千日前線・中央線)①

# 阿波堀、永代浜から大塩平八郎終焉の地へ

本町駅(地下鉄御堂筋線・四つ橋線・中央線)

「大阪あそび歩マップ集」  
その2 No.068

### 地下鉄阿波座駅

阿波座は、阿波国の商人たちが居住していたといわれています。阿波の特産、藍玉が扱われていたようです。

#### ①阿波堀川跡

阿波座堀川とも呼ばれ、慶長5年(1600)に開削された古い堀川がここに流れていました。その水運を利用して、江戸時代の雑喉場魚市場や靱海産物市場が立地していました。

#### ②靱海産物市場跡

干物、塩干物、鯉節など生魚以外の海産物を売買する市場で、江戸時代初期からありました。肥料として使われる干鰯も取引され、享保9年(1724)には干鰯14万俵という記録もあります。



#### ③永代浜跡

海産物の陸揚げを容易にするために、靱の塩干魚商人たちが寛永元年(1624)に阿波堀川から並行して現在の靱公園内を流れる海部堀川を開削しました。その堀川の引き込み口のあたり(楠永神社付近)を永代浜と呼びました。永代浜は、塩干魚・鯉節などの荷揚げ場、市場として靱の中心でした。

#### ④楠永神社

本町の御霊神社の元宮がここにあったとされます。楠永神社は樹齢300余年の2本の楠がご神

● 体で、伐採しようとする祟りがあり、ここに残されました。

#### ⑤梶井基次郎文学碑

● 梶井基次郎は明治34年(1901)、西区土佐堀に生まれ、靱にも住んでいました。靱公園に『檸檬』の一節が刻まれた石碑があります。

#### ⑥飛行場跡説明碑

● 戦後しばらく、靱公園は米軍に接収されて、小型機の発着空港として使用されました。その説明が書かれています。

#### ⑦大塩平八郎終焉の地碑

● 大塩平八郎は、幕末に近いころ、大坂東町奉行所の与力で、高名な陽明学者でした。奉行所を退職したのちは洗心洞で塾生に知行一致を説き、天保の大飢饉でまちに餓死者があふれる様子を見て、米を買い占める商人やそ

れに結託する役人を咎めて、「救民」を掲げて反乱を起こしました。豪商の蔵を打ちこわし、大坂城の米蔵へ向かいましたが、わずか半日で制圧されました。幕府役人であった者の反逆は幕府に大きな衝撃を与え、その後の幕末の動乱を迎えます。大塩平八郎と養子・格之助は靱掛掛町の美吉屋に潜んでいましたが、幕吏に包囲されて自爆しました。死体が確認できないほど傷んでいたため、大塩は生きているという噂が絶えず、民衆は大塩の出現をいつまでも待望したといわれています。



地下鉄本町駅

